



## わたしの平和宣言

- すべての人の生命を大切にします
- どんな暴力も許しません
- 思いやりの心を持ち、助け合います
- 相手の立場に立って考えます
- かけがえのない地球環境を守ります
- みんなで力を合わせます

（「わたしの平和宣言」は、1998年に開かれた国際人権会議に集まった、ノーベル平和賞受賞者が起草した6項目の誓い。項目のタイトル部分）

# 人の心の中に平和のとりでを築こう！

「平和の鐘を鳴らそう2022」から

## 高校生3名のスピーチ紹介

ロシアのウクライナ侵攻が続く中、広島ユネスコ協会は、今年も戦争や災害のない世界の実現を願い、「平和の鐘を鳴らそう2022」の集いを、終戦記念日の8月15日に広島平和記念公園の「平和の鐘」の前で開きました。「平和のスピーチ」に立った高校生3名の訴えを紹介します。

（平和・世界遺産部会長 内田一士）



広島大学附属高等学校 ユネスコ班

神尾 惺那さん

『遠いむかしのできごとをわすれずに思うアオギリのうた これから生まれてゆく広島を大切に』

これは、この平和公園内でも聴くことのできる『アオギリのうた』の一節です。先日、ユネスコ班の活動の一環として碑巡りをした際に数年ぶりに耳にし、印象に残った歌詞であるとともに、私の思いと重なる部分もありました。私は広島で生まれ、今日

まで育ちました。ここ広島は、平和都市として世界に知られています。原爆投下後の焼け野原となったヒロシマのまち。今もなお放射能の被害に苦しむ人々。小さな頃から広島に起きた出来事の話も多く見聞きしてきました。そうした体験を経て、私は、戦争の恐ろしさを知ることができました。

戦争を知る世代は年々減少し、全国の被爆者の数は現在では10万人ほどになりました。このような状況の中で、戦争の実態を知るとはとても意義があることです。広島や長崎、沖縄など、戦争で特に甚大な被害を被った地域だけでなく、日本中の人々、そして世界の人々へと過去の出来事を語り継いでいく必要があります。

また、私はあるときから、平和とは何だろう、とも考えるようになりました。ですが、今までほとんど何の不自由なく暮らしてきた私にとって、それは難しい問題でした。それと同時に私がいかに漠然と平和を捉えていたかを自覚しました。

そんな私ですが、ここ数年で起きた出来事により、平和というものを意識するようになりました。感染症による突然の休校、軍事侵攻、著名人の死。どれもが衝撃的な出来事でした。学校に行き、友人と会い、ともに学び合えることが当たり前ではない、とても幸せなことなのだと感じられました。

平和には人によって様々な考え方があると思いますが、私は小さな幸せの積み重ねから生まれるものだと思います。戦争の恐ろしさを知り、それを伝えることだけでなく、一人一人が感じた幸せを、平和の大切さを共有し広げていくことこそが私たちにできることであり、平和への第一歩となるのではないのでしょうか。

遠い昔の出来事を忘れず、これからの平和な世界を作り上げる1人として、今日は、この鐘を鳴らします。

## 広島大学附属高等学校

興野美優さん

Aim For A Peaceful World

Hello, everyone my name is Miyu Kohno. I am a high school student in Hiroshima.

Today is 77 years since the end of World War II in Japan. Japan lost the war and the whole country was burned to ashes. It may be difficult to think of war from how Japan looks today, but if you look at the whole world, war is going on, and it is not much different from 77 years ago.

On August 6, 1945, the world's first atomic bomb was dropped on Hiroshima.

Have you ever visited the Hiroshima Peace memorial Museum? As soon as you enter the museum, you can see a photo of the center of Hiroshima before the atomic bomb was dropped. You can sense that Hiroshima was a very lively and bright city. Next, you can see a photo of Hiroshima right after the atomic bomb was dropped. You can see at a glance how much a single atomic bomb changed the city became a dark, empty city in an instant.

Also, near my school, there is a photo of the bridge after the atomic bomb was dropped at Miyukibashi, two kilometers from the epicenter. I was shocked to see this photo of people walking with burns and melting skin, and to learn that this kind of tragic thing happened near the school a long time ago.

We deprives children of their right to study and adults of their right to speak freely. They are frightened by the sight and sounds of the war, and this fear prevents them from sleeping, and there right to sleep calmly. Even the most important right to survive is not protected. Therefore, war is called the greatest violation of human rights.

Now that atomic bomb victims are getting older, it is becoming difficult to convey the damage caused by nuclear weapons. We need to learn more an hour the destruction caused by atomic bombs and communicate it to future generations.

In the midst of wars around the world, the G7 summit will be held in Hiroshima next year. It is a great opportunity to appeal to the world for people and an end to the misery of war. Peace is something that we can build by helping each other. So, we have to think about what we can do for world peace.

In Ukraine, dairy life is shattered and families are torn apart. The fear and sadness of Ukrainians is the same as Hiroshima citizens experienced 77 years ago.

We must never forget past wars. Let's learn about the war in Hiroshima and continue to talk about it, and aim for a peaceful world in which human rights are protected.

Thank you for listening

第25代高校生平和大使  
広島県立広島国泰寺高等学校

荒川彩良さん

今から77年前、1945年8月6日8時15分。たった一発の原子爆弾が広島市の上空約600mで炸裂しました。広島に強烈な熱線、放射線が降り注ぎ、巨大な爆風が家屋をなぎ倒しました。

そして当時の広島の人口の40%、約14万人の尊い命が年末までに失われたとされています。非人道的に、ただそこに生きていた罪のない人々が、無惨に亡くなったのです。残された人々も日常を失いました。家族を失いました。希望や夢を奪われました。後遺症や差別に苦しみ、その後の生活にも大きく影響を受けました。

今、被爆者の人数は全国に13万人ほどいらっしゃいますが、原爆の記憶を語ってくださっているのは1%以下の100人ほどです。それだけ、その時の記憶は凄惨であり、語り始めると昨日のこのように蘇るのでしょうか。また、今でもその記憶に苦しみ続けているということなのです。

そして、被爆者の方の平均年齢は80歳半ばとなり、被爆者の方は年々少なくなっています。また、日本は唯一の戦争被爆国であるのに、原爆の記憶の風化が進んでいます。

ロシアのウクライナ侵攻により、核抑止や核共有の話をよく聞くようになりましたが、核を持つという事は、使う可能性もあり、加害者となり得るということを示します。あの広島、長崎の惨劇を繰り返す可能性があるということなのです。

戦争被爆地広島、長崎だけでなく戦争被爆国、日本として、今こそ核兵器廃絶を訴えていく必要があります。

若者である私たちができることは、自ら原爆や平和について学び、被爆者の方から被爆体験や平和への思いを受け継ぎ、次なる伝承者となることではないでしょうか。

非人道的な核兵器の恐ろしさ、一瞬で多くの尊い命が散ってしまう非情な兵器の廃絶を、日本全国に、そして世界に発信していくことが必要です。

「微力だけど無力じゃない」——これは高校生平和大使のスローガンです。私たちの声はたくさんの人には届かないかもしれませんが、ですが、全くの無力ではないのです。

自分の言葉で発信していき、私たちの周りから少しずつ、核のない平和を思う気持ちの連鎖を作っていきましょう。

## 「高校ユネスコ班活動」とSDGs

広島大学附属中・高等学校  
教諭・ユネスコ班顧問

鶴田輝樹

1905年に広島高等師範学校附属中学校として開校した本校は、1953年にユネスコ協同学校（ASPnet、現ユネスコスクール）に指定され、以来半世紀以上にわたり、ユネスコ教育に取り組んできました。特に、1970年に校内でユネスコ班（クラブ）が組織されると、広島ユネスコ協会や日本ユネスコ協会連盟と提携・協力して様々なユネスコ活動やSDGs推進の取り組みを行ってきました。

具体的に、これまで実施した班活動として、「全国高校ユネスコ研究大会の運営」、「校内で不要になった運動靴を回収し、アフリカへ送る活動」、「バングラデシュの工芸品等のチャリティーバザー」、「ユネスコアジア文化センター主催事業への参加及びインドネシアの高校生との交流」、「日本ユネスコ協会連盟主催行事“ユネスコユースセミナー”への参加」、「岩国市内の高校生との地球環境や平和についての討論会」、「杉並ユネスコ協会との交流」等があり、数名の生徒が高校生平和大使としての活動も行わせていただきました。

また、毎年の継続的な班活動として、「平和記念公園内にある様々な石碑を巡り、平和に関する意識を高める活動」、「8月6日の慰霊追悼の集い（校内実施）のための折り鶴作成」、「8月15日の広島ユネ

スコ協会主催行事“平和の鐘を鳴らそう”への参加及び平和のメッセージ（日本語・英語）のスピーチ」、「文化祭でのフェアトレード商品の紹介」、「使用済み切手・カード、書き損じはがきを回収・換金し、発展途上国の教育や医療に役立ててもらう活動」等を実施しています。特に2022年は、ロシアのウクライナ侵攻という世界的な問題に直面し、ユネスコ班員たちは自主的に校内で募金活動を行うとともに、ウクライナから避難してきた学生達が主催する“ウクライナ平和サミット”に参加しました。また、ウクライナの現状や平和サミットの内容を壁新聞にまとめ、文化祭において展示発表も行いました。

近年のコロナ禍において、高校ユネスコ班活動は様々な制約を受けています。他校との対面での交流が難しくなり、例年参加していた多くのイベントが中止となりました。そのような状況でも、ユネスコ班員である生徒たちは、今自分たちに何ができるのかを考え、オンラインでの交流会やSDGsに関する学習会に積極的に参加しています。本校では、これからも、高校ユネスコ班活動を通して、生徒一人一人の、平和やSDGsへの関心を高め、自分ごととして地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度を育てていきたいと考えています。



平和記念公園 碑巡りの様子



文化祭でのフェアトレード商品の紹介



ウクライナへの募金活動(校内)の様子

### 高校生国際理解セミナー

開催日：12月11日(日) 10:00～12:30

会場：広島市青少年センター

講演：テーマ「Green Legacy Hiroshima (GLH)

～ Power of Sustainability ～

講師：国連訓練調査研究所（ユニタール）広島事務所

Ms. Nassrine AZIMI（ナスリーン アジミさん）

国連訓練調査研究所広島事務所

通訳・ファシリテーター

島津 準子さん

主催：広島ユネスコ協会、広島市青少年センター

受講対象：15～18歳の高校生相当年齢の人

定員：30人（先着順）

参加費：無料

申込み：参加を希望される方は、氏名、学校名(学年)、電話番号を12月9日(金)正午までに、電話、来館、メール、LINEにて青少年センターまでご連絡ください。  
※広島市青少年センター Tel: 082-228-0447

e-mail y-center@cf.city.hiroshima.jp

(青少年育成部会長 横佩 智恵)

## 第181回『ユネスコサロン』

テーマ  
「世界遺産の現状と展望」

＝ 講演を聞いて ＝

文化部長  
高田 幸子

サロンは9月25日に開催。ユニタールの持続可能な繁栄局リーダーシップ&インクルージョン担当課長の島津準子さんをお迎えして、「世界遺産の現状と展望」について、ご講演を戴いた。世界遺産は



講師の島津準子さん

1954年のハーグ条約を基に、「世界中の文化遺産を全人類のための世界の遺産として登録して相互理解、国際平和に貢献していこう」という趣旨のもと登録される。

世界遺産を保有している国は167カ国。文化遺産・自然遺産・複合遺産の合計登録数は1,154件にのぼる。日本の第1号は1933年に登録された法隆寺と姫路城である。この2件には日本の修復技術の価値を認められ、世界中の土や木を使った文化遺産の保護に扉を開いたという。私たちにとって非常に嬉しく、誇らしいことである。それらは現在ベニス顕彰、奈良文書によって保護さ

れている。その一方で観光客の増加や地球の環境変化で32カ国、52件が抹消の危機にさらされている。また紛争中のウクライナには7件の世界遺産と多数の文化財があるが、ロシア軍の攻撃による火災で、博物館の5万点以上ある収蔵品の大半を焼失したという。島津さんは、世界遺産の保護には武力や災害から保護するブルーシールド活動が必要であると述べられた。



世界遺産を保護するために条例が設けられ、今日に継承されていることを新しく学び、世界遺産に対しての認識も変わって来ると思う。世界遺産を保護し、継承していく意義を深く学んだ講演であった。



(写真撮影・広報部会副会長 岡平裕次)

## ユネスコニュース

### <中国ブロック・ユネスコ活動研究会 in大田>

この研究会は、3年ぶりの集会方式で、10月15日(土)鳥根県大田市の「あすてらす」で開催されました。参加者は、日本ユネスコ協会連盟鈴木理事長ほか中国5県15協会の38名が参加するとともに、関係者を含めて延べ160名が参加する会となりました。

大会のテーマは、「SDGsと地域・町づくり」とし、ミュージカルを取り入れるなど斬新な内容で開催されました。基調講演では、鳥根大学の松本教授による「魅力ある大田のためのSDGs活用法」と題して、世界遺産に登録された石見銀山がなぜ持続可能で自然と共生してきたのかをSDGsの中身から紐解いて分かりやすく解説されました。

広島ユ協からは松岡会長、亀井顧問、藤井参与のほか4名の理事が参加しま

した。

### <日本ユネスコ運動全国大会in木更津>

この大会は、11月26日(土)千葉県木更津市の「かずさアカデミアホール」で、全国から県及び地区のユネスコ協会から会員が参加して開催されました。

大会のテーマは、『誰一人とり残さない平和で持続可能な未来を目指して「オーガニックシティ木更津からの発信』』として、基調講演や実践発表、パネルディスカッションで構成されており、参加した協会の資質向上と、人々が安心して暮らしていける生活環境を構築する運動を展開している、民間ユネスコ活動について協議されました。

広島ユ協からは理事2名が参加しました。(広報部会理事 清水昌法)

### 国際フェスタ

国際フェスタ2022(主催・広島平和文化センター)が11月20日、国際会議場や平

和大通り緑地帯を会場に開かれました。広島ユネスコ協会は国際理解・友好促進の主要団体として参加し、「市民団体等活動紹介コーナー」で、写真展示などを行い、高校生の国際理解セミナーや平和の鐘の集いなどの活動を紹介しました。(国際部会長 政木恵美子)

### <会員を募集しています>

ユネスコの精神に賛同し、協会の活動に参加したり、支援をしていただける方を募集しています。年会費(個人会員の場合)3,000円。青年(~35歳以下)は2,000円。

申込先: 森木事務局長090-7132-2284、または広島ユネスコ協会HPから検索。

当協会URL: <https://www.unesco.or.jp/hiroshima/>

or.jp/hiroshima/入会案内へ。



広島ユネスコ協会